

第 1 1 3 回 添加物専門調査会における添加物「ポリビニルピロリドン」に関する発言まとめ（案）

- PVPに含まれるヒドラジン（遺伝毒性発がん物質）の発がんリスクレベルはEFSAの試算に基づく56万分の1であった。添加物専門調査会では、過去に発がんリスクは100万分の1以下であれば問題ないという立場を採用してきた。今回の56万分の1という数字をどのように解釈するか。
- 化学物質・汚染物質専門調査会では、10万分の1が良い、100万分の1が良いという評価はせず、発がんリスクレベルをリスク管理機関に通知するという評価結果とすることがある。
- ヒドラジンの基準値である1ppmを基に発がんリスクレベルを議論したが、実際に流通するものを想定した検討も有用ではないか。
- 発がん性のメカニズムをどのように評価するかも重要である。また、10万分の1が良いのか、100万分の1が良いのかということについては、添加物専門調査会としてではなく、食品安全委員会全体としての議論が必要。
- 動物用医薬品専門調査会でもヒドラジンの議論の経験がある。評価経緯が参考になるのではないか。